

## 第1回四日市市子ども・子育て会議 議事概要

日時：平成28年2月8日（月）

午後6時～午後8時30分

場所：市役所11階 職員研修室

### (1) 四日市市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

事務局より資料1について説明。

#### ○質疑応答

##### 【 会長 】

- ・まず、「1.教育・保育事業」のところで、何か感想・意見はないか。まだ1年経たず、実績数値は11月までのものなので、そこを少し念頭に置いて理解していただければと思う。

##### 【 委員 】

- ・新制度が始まって、「保育園への入園に必要な要件の緩和などにより」と資料にもあるが、数値を見ると、予想以上に増えたのだと思う。増えた理由としてはこういう状況が感じられるとか、現場で保護者の今までと違ったこんな動きがあるとか、そういった辺りを教えていただきたい。

##### 【 事務局 】

- ・まず、増えたのは基本的には3号認定である。1号認定というのは、3歳以上の、幼稚園に入る、いわゆる保育を必要とされない方が認定を受ける場合である。そして、保育園に入りたい、保育を必要とされる方で、3歳未満の方を3号認定、3歳以上の方を2号認定と言う。この3号認定、3歳未満の保育を必要とされる方が増えたということである。保育が必要かどうかという必要性の認定の中の基準が、新制度と旧制度とでは異なっている。まずひとつは、就労時間の下限である。旧基準では、低年齢児であれば、だいたい120時間以上の仕事をする方を保育園に入る基準としていたが、現状は64時間まで下がっている。そういう方も保育園に入る要件を満たしている形になる。また、64時間を満たしていない方でも、それ以上働くということで仕事を探される場合、求職活動ということになるが、この方に対しても、3か月を限度に保育の必要性を認めるという制度に変わっている。したがって、例えば、保育園の申し込みをされた時点で仕事が足りない方も、求職される意思があれば、新基準では待機児童になるという形になる。

##### 【 委員 】

- ・今年から認定がいろいろ変わって、以前は120時間であったが、64時間でも保育園に入れる。それも、0・1・2歳児も入れるようになった。家での保育を重視して欲しかったので、0歳

児も3、4時間で入れるというのはどうだろうかという感じで今年度を迎えたが、0歳児で短時間は少なく、長時間がほとんどなので、標準時間という形で受けて保育している。乳児の場合は今年から短い時間でもお預かりしている。保育園が増えてニーズも増えたせいも、たくさんの方が保育園に入られるようになった。果たしてそれで良いのかという想いはある。いろんなニーズがある中で、保育園があるから入れるというのが、子どもにとって果たして良いのかどうかという部分を、もう少し話し合っただけで検証していただきたい。乳児にとって長時間保育は少し厳しい。子どもにとって何が大事なのか。0・1・2歳の子育ての中で何が一番大事かというところ、親と子が向き合う時間が多い方が心の育ちも豊かになる。それを私たちが担っていくには、少し多くなりすぎたのではないかという思いもある。ニーズに応えるという意味では、保育園はとても大事な施設なので、応えようと努力はするが、それには保育士不足もあり、子どもの育ちの部分と保育士の不足の部分が懸念しているところである。

#### 【会長】

- ・小さい子どもが保育を受けるというのはどうなのかというのは、今始まったことではなく、ずっと言われ続けてきた問題である。保育園を増やす、そうすると入る子どもが多くなる。多くなるとそういった心配がでてくる。保育士の数が少ない。保育士に対する処遇の問題や、低年齢の子どもたちが集団保育を受ける時期とか期間はどうかあるべきかというところが、まだまだ解明されていない。人間というのは単純なものではなく、生きていくために様々な知識や技術や環境に働き掛けながら変わっていくので、保育園に行ったらこうなり、幼稚園の教育を受けたらこうなるとか、そういう単純なものではない。むしろ、我々が考えなければならないのは、保育士の処遇をなんとか改善していくとか、子どもたちの環境にとって最低基準はどうかとか、そういうところをみていく必要があると思う。待機児童の問題は増えたり減ったりということがあっても、根本的な解決はなかなか難しいと思う。そこを少しでも良いところへ持って行くにはどうするかを議論するしかないと思う。

#### 【委員】

- ・保育士不足と言われたが、保育士になる人が少ない。保育士に魅力がない。環境が悪い。環境が悪ければ環境を直せば良いだけである。そこは行政にもっと動いていただければ良いのではないかと。保育士というのは、昔は女性になるものだという観念があったが、最近は男性もなっている。男性になるのにハードルが高いのであれば、下げていただき、誰でも働きやすい環境づくりをしていただくと、子どもにやさしい四日市になってくのではないかと。このハードルが非常に高いがために、保育士のなり手が少ないのではないかと。どうか。

#### 【委員】

- ・父親のサークルに元保育士が2人いるが、なぜ辞めたのか聞いたところ、そのお金では子どもが養えないということであった。それが実状である。保育士の夢を持っていても、他の人の子どもは育てられても、自分の子どもが育てられない。そこが矛盾している。夢がそこで閉ざされる。

### 【委員】

- ・保育士のOBはたくさんいる。例えば結婚して保育士を辞めた方もたくさんいる。そういう人に再就職していただくというのも良いのではないか。そうすれば、時間的制約も変わってくるのではないか。例えば、朝の時間はOKとか、昼からならOKとか、そういうところを把握していただければ良いのではないか。今でも時間給で働いている方はたくさんいる。その方たちに聞くと、子どもが好きだから、子どもと一緒にいるのが楽しいから続けているんだと。本当の魅力は何か、子どもにとって何が大切かと聞かれたとき、これだと言える人が何人いるのか。四日市の子どもが四日市に帰ってくるようにしようと思ったら、小さい時の環境づくりをきちんとしないといけないのではと思う。

### 【会長】

- ・保育士の問題はこれから議論を続けていく必要があると思うが、現在の実施体制も含めて説明があった。今後の方向性のところを見ていただくと、待機児童が増加するということに対して、新設を含めて定員の拡大、あるいは、小規模保育を含めて枠を大きくしていく、という今後の方向性が出ている。恐らく対処療法になるのだろうと思うが、とにかく、希望している方たちのニーズにある程度応えていかないと、問題の解決が見えてこない部分もある。
- ・「2. 地域子ども・子育て支援事業」では、実にさまざま事業が展開されている。まず、(1) 延長保育事業のところでは何かあるか。

### 【委員】

- ・5頁に「旧東橋北小学校の跡地活用で計画している幼稚園と保育園の新施設においても」とあるが、どのような一体化を考えているのか聞かせていただきたい。

### 【事務局】

- ・耐震補強工事がされていないということで、今、橋北幼稚園が中学校に間借りしてる。また、橋北保育園は大変古い園舎である。この2園を、新しい施設で、幼保連携型認定こども園という新たな形態のもとに29年度開設の予定で進めている。

### 【会長】

- ・認定こども園を視野に入れているということだと思うが、そのことも含めて何か意見はあるか。
- ・なければ、(2)一時預かり事業についてはいかがか。

### 【委員】

- ・計画値はどこから弾き出されたものか。

### 【事務局】

- ・『四日市市子ども・子育て支援事業計画』の58頁をご覧ください。平成25年度、その時点での利用実績の年間52,000人と、この計画を策定するにあたってのアンケートからの見込

であるが、それを少し上回る見込みである。

**【委員】**

- ・私立幼稚園各園でこれだけ受け入れられるという数値ではなく、25年度の実績に少し加味したという数値か。受け入れられると思う。

**【会長】**

- ・(2) ②保育園等における一時預かりについてはいかがか
- ・なければ、(3)子育て支援センター事業についてはどうか。

**【委員】**

- ・子育て支援センターの新設は、計画にも入っているので進めていただけたらと思うが、私立幼稚園のある園が支援センターを開設したいと申し出たところ、いろんな事情で却下ということがあった。新規の設置に向けての市としての条件や基準、その辺りはどの様に考えているのか。

**【事務局】**

- ・子育て支援センターの設置については、基本的には、いろいろ形で身近なところに設置するというのが方向性であるが、特定の地域に偏った場合については、まだ設置されていないところを優先的に進めていきたいというのが、一つの大きな考え方である。

**【委員】**

- ・新設については、どの辺りの地域を考えているのか。

**【事務局】**

- ・新設については、今後、公立幼稚園の適正化の関係もあるため、いろんな状況も視野に入れながらというところである。該当の地域はかなり密集しているということもあり、もう少し状況をみていきたいということで、話をさせていただいた。

**【委員】**

- ・まだ具体的ではないということか。

**【委員】**

- ・支援センターは日曜日に開催することはないのか。ニーズはすごく多い。桑名市の陽だまりの丘に新設されたところは、土日に開いている。利用者も多く、お父さんもたくさんいる。父親の立場で言うと、そういうところは安心できる。プロがいるし子どものトイレもある。そういうところで日曜日に開いているところが、四日市にはない。父親の支援ということでは、日曜日に開いているところがない。先日、「日曜日はどこへ行くの?」「ショッピングセンター」「何するの?」「ゲーム」というような会話をしたが、ゲームセンターで会っても公園で会っても、

お父さん同士は挨拶程度。推進していくのであれば、日曜日にひとつでも開催してくれるところがあれば、一歩進むと思う。

#### 【会長】

- ・利用しやすいというのは絶対的な条件である。どんなに施設が立派でも利用できないような状況では全然意味がない。

#### 【委員】

- ・「実施状況における評価」のところだが、子育て支援センターは、ハード面で充実してきているので、そこへ足を運んでいただける家庭というのは、ありがたい家庭だと思う。中が見える。しかし、孤立とか引きこもっている家庭、なかなかそこへ足を運べない家庭、子育て中の家庭というのはなかなか難しいと思うので、ソフト面の充実や、いろいろな施策・方策を考えていただきたい。

#### 【会長】

- ・そこはすごく大事な問題で、例えば、子どもの問題が起きたときに児童相談所に行くかということ、そうではない。それぞれの相談の機関はあるが、本当に困っている方とか、そういうことがよく分かっていない方がいたりする。点であるのを線にしていかなければいけないと言うが、そういう作業も、行政だけでなく民間もそういう働きかけをしていかなないとだめである。地域とか学校とか施設とかが、連携できるようなシステムをもっと考えていかなないといけないだろうと思う。そこを行政任せにするのではなく、行政と協力しながら、我々が地域との連携の中で現実化していかなないといけないと思う。
- ・(4)はショートステイ事業である。(5)は病児・病後児保育事業である。これは他の市でもそうだが、ハード面や医師が少ないということもあって、需要はあると思うが、なかなかそれに応えられず、隣の市町に協力を求めて利用してもらっているというところもある。行政だけではどうにもならないという部分をすごく抱えており、それを視野にいれながら、事業計画に基づいて、少しでもそういうところを何とか利用してもらえようようにしていこうというところの議論だと思う。(6)はファミリー・サポート・センターである。地域によって、子育ての援助を受けたい人と子育てを援助したい人の登録者数に不均衡が生じているという指摘があった。こういうのは早く何とか解決してほしい。子育て支援の中で非常に重要な分野であるし、行政というより、むしろ民間レベルでここをもっと広げていって充実させていくことが重要なことなのではないかと思う。この辺りまでで何か。

#### 【委員】

- ・病児保育室は、二宮病院に併設しているカンガルーム、ここだけなのか。市立病院ではこういうシステムをやっていなかったのか。これからもやろうとしないのか。せっかく市立病院があるのに、もったいないという気がする。

### 【事務局】

- ・カンガルームについては、二宮病院の敷地を借り、そこに市の建物を建てている。今は、指定管理者制度を活用して、二宮病院に病児保育室を運用していただいております、その愛称が「カンガルーム」である。市立病院の活用については、種々検討する中にあるが、実現に至っていない。今後の方向性として、引き続き新規設置に向けて検討していくが、条件等が整えば二つ目につながる可能性も微かながら出てきているので、その辺りに力を注いでいきたいと思う。病児保育については、市全体の中でバランス良く配置できれば一番良いが、開設が可能であれば、同じブロック内であっても設置に向けて努力したい。

### 【会長】

- ・医療関係の方に理解していただき、協力してもらえると、もう少し安心して親が働けると思う。行政はそれに向かってできるだけ良くしようと、こういう事業計画を作ってサポートしている。ただ、オールマイティにできるわけではないので、全て行政に任せるというのではなく、民間の人たちの力、あるいは地域の力というのを掘り起こして、地域で子どもたちをみていくといった方向へ社会を変えていかないと、なかなか難しい。

### 【委員】

- ・母子・父子自立支援員について、実態として、どのくらいの人数で対応され、年間どれくらいの家庭を対象に取り組まれているのか。
- ・ファミリー・サポート・センターについて、こどもスペースとまんなかこどもステーション、ドロップ in との連携はどうなっているのか。

### 【事務局】

- ・母子・父子自立支援員は現在3名勤務している。ひとり親家庭の相談・支援にあたっており、生活全般のことや子育て、経済的な自立の相談・支援を行っている。件数としては、昨年度1,600件弱の対応を行った。
- ・ファミリー・サポート・センターについては、NPO法人の皆さんが、従来の中で連携もしていただいていると思う。いろんなネットワークを通じて援助会員の募集を行っている。子どもとの付き合い方や、支援の必要な子どもについてなど、いろんな形の講座も開催している。この件に関しては、先般、地域の方に新規援助会員講習会に参加いただくために、民生委員・児童委員協議会にもご協力をお願いするとともに、各地区の回覧で参画を呼び掛けている。

### 【委員】

- ・私たちは子育て支援の一端を担っているが、それぞれ独自で活動している。午前中の居場所などを子育て支援として、親子が集える場を作っているが、市からの補助はなく、自力でボランティアでやっているのが現状である。ファミリー・サポートに関しては、3団体協力している。援助会員にもなっている。市の中心部ということもあるので、一緒にカバーするというところで、NPOとしての連携が功を奏していると思っている。

- ・数値が少しずつ上がってきているという報告はすごく良いことだが、支援の質が置いてきぼりになるので、心配している。延長保育の箇所が増えるとか、施設が増えるとかいう話の一方で、支援する保育士が減っている。パートの保育士が増えていると思うが、パートの保育士の間で、引き継ぎがされないとか十分な教育ができないということで、事件や事故が起こらなければ良いかと、心配になる。支援の質で、乳児を預かっているが放ったらかしになっていないか、など不安になるので、その辺りを今後どうしていくのかということも教えていただきたい。

#### 【会長】

- ・事業計画で目標をたて、その目標に向かって1年1年検証していくというときに、質的などころの議論というのは当然必要である。ただ、保育士が1人いたのが2人になったといったときに、1人のときの取組方と2人になってからの取組方を、具体的に誰がどういう風に評価していくかということ、非常に難しい。最低基準というのは、それで良いといっているのではなく、最低基準を必ず向上させろと言っているのである。保育も同じである。幼児教育も。良くないところがあればより良くするように努力するべきだということだと思う。
- ・(7)学童保育についてはどうか。

#### 【委員】

- ・指導員の資格認定を作ってもらい、新たに学童保育の基準が上がってきた。また、市の配慮により、分割や支援数の増加というのは進んでいるのは確かである。利用児童数を見ながら考えていくと、二つに分割しているところは、海蔵、富田、常磐、日永、川島、大矢知、泊山、大谷台、内部東、中央である。支援数を変えて二つにしたところが、県、桜台。海蔵は第2の支援数を二つに割っているので3支援あるという、これだけでは読み取れない複雑なところがある。数字を見ていただくと、内部は利用児童数が43人で2分割している、しかし、常磐西は68人で2分割していない。来年度、常磐西も分割していくという可能性はあるが、三重の59、三重西の68、三重北の47と、50人を超えているところでも、分割を考えるのが難しい学童は、指導員の数と指導員の質のところはネックにあるということと、民設民営であるので、施設を簡単に増築するというのが無理で、そこに格差ができていく。施設面の補助金も上がり、拡大し拡充してはいるが、もう少し細かな配慮が必要である。また、分割のときの基準、例えば、ここは人数が満たないのに分割できて、ここは人数が多いのに分割できない、という事態も起こっているのでは、その辺り市に聞きながら、より良い学童保育ができればと思うので、お願いします。

#### 【事務局】

- ・ハードの部分については、27年度に補助率あるいは補助の限度額を上げるという形で、一定の見直しをさせていただいた。一方で、ソフトの部分にいろんな形で課題が出てきている。27年4月に、全国的に、必要最小限という部分の条例制定を行った。概ね児童一人あたり1.65㎡の面積が必要であること、あるいは、支援の単位40人以下が望ましいということ、また、4年生以下というところが、小学生全員、6年生まで拡大し、いろんな状況が変わってきてい

る。それとともに、人数は増えているが、なかなかハード的な部分、分割するのが難しいというところもある。個々の事情・状況によって、土地の関係、建物の関係、いろんな状況があるが、最低基準をクリアする努力が必要であると考えている。一方で、指導員の資質、スキルアップも大事になってきている。年々支援の必要な子どもが増えてきており、また、支援の必要な家庭も増えてきているので、いろんな形で情報交換をしながら対応していく必要があると考えている。担当が学童保育所に行くたびに、新たな課題が出てきているのは認識しているので、いろんな観点をふまえながら、少しでもより良くしていく形で考えていきたいと思う。

#### 【会長】

- ・次の(8)利用者支援事業。何気なく情報提供と書いてあるが、広報などにいろいろ書いてくれるが、どれだけの人がそれを読んで理解しているのか。そういうことを考えると、広報のあり方も、もう少し考えていかないといけない時代になってきたのではないか。例えば、パソコンが普及しているから情報が流れると言うが、パソコン環境が生活の中にない方もいる。そういう人たちはどうするのか。市民一人一人に情報が行き届く、そういうシステムにしないとだめである。子育て支援を研究してきたのが、よく知らない方が多いということである。そういうところを分かってもらえるような伝え方を考えて、多くの人理解でき、適切に利用して、豊かな子育てができるような社会にしていかなないといけないと思う。(9)は妊婦健康診査。次に(10)こんにちは赤ちゃん訪問事業。これはすごく大事なことだと思っている。虐待の問題も貧困の問題もそうだが、子どもたちが「助けて」と言っているのを一番早い段階でチェックできる部分だと思っている。こういうところをもっともっと充実させて、次のステップにつなげていけるように進めていくと良いと思う。それから(11)養育支援訪問事業。これも非常に重要である。全体を通して何か質問等はないか。

#### 【委員】

- ・いろんなところでいろんな課題があるのだと再認識できた。行政も限界があると思う。全てのことが大切な問題だが、その中でも養育支援訪問事業は特に大切ではないか。ちょっと目を離すと事件とか事故とかにつながりかねないので、最優先課題として対応すべきではないか。
- ・もう一步進んで、四日市らしい特徴、四日市の住民としては、他に誇れるような特徴がほしいと感じる。

#### 【会長】

- ・とにかく、少しでも現状を良くしていく努力をそれぞれの分野でやっていく必要があると思う。人口が減ってきて、財政的にどこの市町も厳しい。今まで経験のない状況に置かれている。子どもたちもいろんな問題を抱えている。親も問題を抱えている。学校もそうである。そういう状況の中で、少しでも前へ進んでいくための努力を大人が諦めたらだめになる。積み重ねていける努力を我々はしていくべきだと思う。27年度から始まった事業計画、31年度までの5年間、5年経ってみて何がどう変わったか、そういうところがきちんと評価できるような事業計画、あるいはそれを進めていくようにしていくべきだろうと思う。次につなげていけるような

議論なり取組をしていくべきだと思う。絶対に大人が諦めてはだめである。四日市は注目されているところでもあるので、四日市ならではの特徴のある支援策や事業計画を、責任を持って進めていくことはできるだろうと思う。

#### 【委員】

- ・コンシェルジュも踏み出していただいたし、養育支援訪問事業も26年度にやっていただいたし、子育てで大事だと言ってきたところを実行していただいているなど、そこは評価している。他の市町と違って、保育所だけ増やせばいい、待機児童をどれだけ減らせばいいと、そういうことだけではなくて、就園前の子育てをどうするかというところで。ただ、コンシェルジュも養育支援も赤ちゃん訪問も、連携が絡んでくるところがあるので、その辺りがどうなのか聞きたい。
- ・特定妊婦の支援はすごく大事なところだと思うが、今、四日市でどのくらいの対象があるのか聞きたい。

#### 【事務局】

- ・コンシェルジュはスタートしたばかりということもあるが、支援センターやいろいろな施設へ積極的に足を運びながら、顔をつなぐというところもある。人と人とのつながりがあるのが情報交換、情報共有ということもあると思うので、そういったところから、今、いろんなネットワークを回りつつ情報提供に努めているところである。
- ・妊婦は日々出産されていくので、今現在の特定妊婦としてこちらが出産までの間定期的に関わりを持っている方は、5名程度である。その方々も、出産されれば、こんにちは赤ちゃん訪問や、引き続き養育支援訪問につながっていくというように、全ての事業がつながっており、特定妊婦の把握から家庭児童相談室や保育所等々と連携をとっている。

#### 【委員】

- ・こんにちは赤ちゃん訪問だが、26年度に2,559人の出生があった。それに対してリスクがある人は保健師とか看護師が訪問し、それ以外はこんにちは赤ちゃん訪問員が訪問とある。それぞれの割合はどれくらいか。

#### 【事務局】

- ・だいたい全体の1/4程度を最初から保健師や助産師が行っている。残りの3/4をNPO法人に行っていただいているが、そのうち1/3くらいについては、気になるところがあったからということで、また市の方に戻ってきて、引き続き支援を行っている。

#### 【委員】

- ・養育支援訪問について、今年度から1名増員ということだが、家庭児童相談室が大変である。もう少し増やしていただくと良いのではないかな。職員一人が受け持つ人数を減らすような体制をとっていただかないと、パンクしてしまうのではないかな。その辺りを検討していただきたい。

## (2) 平成28年度に向けた利用定員の拡充について

事務局より資料2について説明。

### ○質疑応答

#### 【会長】

- ・これでよろしいか。もう少し状況をみないと分からないかもしれない。

#### 【委員】

- ・これから考えていかないといけないのは、待機児童をなくしていかなければいけない、これは確実だと思うが、どうしていけば良いのか。増やすとまた増える、増えたら増やす、といったイタチごっこの時代がまだ続く可能性はあると思う。今までは、就労していたらそれは保育園でしかない。ただ、例えば、週3日程度の勤務など、いろいろな方がいるので、そういう方は私立幼稚園の各園のところで対応できるのではないかと思っている。それぞれがどういう役割を担っていくかということ、ある程度四日市なりに整理して、保護者が選べるようになっていかないと、なかなかこの問題は解決しないのではないか。ただ、国の基準の小規模保育事業では難しいので、四日市が認める私立幼稚園の小規模保育事業の基準について、いろいろ相談にのっていただきたい。

#### 【事務局】

- ・小規模保育事業は0歳から2歳までなので、私立幼稚園では今の段階では難しいのではないかとこのことがあるが、このあと、いろいろな事業展開の中で、私立幼稚園協会とも話をさせていただく。

#### 【会長】

- ・委員の方からいろいろ意見を伺った。事務局も思うところがあると思う。事業計画の進捗の中で参考にしていただきながら、また、我々もこれから考えないといけないだろう。

### その他

本市の児童館事業について（橋北児童館の移行に向けて）、事務局より説明。

#### 【事務局】

- ・全市的な事業を展開するにあたって、あるいはネットワークの構築に向けての考え方、情報提供、相談支援の強化など、諸々考えていく中で、委員の皆様の様々な視点から、こんな点について留意すべきであろうと、開館時間・開館日も含めて、ご意見を賜りたいと思う。

**【会長】**

- ・これも、それぞれの立場で意見があると思う。提案だが、今回は説明を聞いて、プランやアイデアがあれば、それぞれの委員から市の担当へ伝えていただくという形でどうか。よろしいか。児童館という言葉にとらわれず、子どもや子育て家庭にとって、すばらしいものにしていきたいと思う。子どもたちが行きたくて仕方がない、保護者も行っているいろいろな場所になるように、ぜひすばらしいプランを提示していただきたい。

以上